

めあて

自分が選んだ絵を見て、読み取ったことを整理しよう。

教科書 P 142, 143 の『風神雷神図』を拡大して提示します。

どこに注目

- ・身に付けているもの
- ・場所
- ・形
- ・色
- ・線
- ・ポーズ
- ・位置

教師のモデル文（『風神雷神図』の解説文）を拡大印刷して提示するか、一部を書き抜いて板書します。

どんなことを

- ・分からない、不思議と感ずるところ
- ・絵を書いた人の思い
- ・絵のすぐれているところ
- ・（「読み取ったことや感じたこと」を表す表現）を使って
- ・全体を見て感じたこと
- ・部分を見て感じたこと

解説文を書くときに使いたい「読み取ったことや感じたことを表す表現」

※第三時で児童がカードに書いたものを掲示します。

【6 / 9時間目 指導略案】 使用するワークシート『鳥獣戯画』を読む⑤  
本時のねらい

解説文を書く絵を見て、読み取ったことを整理させる。

1 前時の学習を振り返り、本時のめあてを確認する。

○ 解説文を書く絵はあらかじめ準備しておき、児童に選ばせる。

※ 解説文を書く絵は、図工の鑑賞用のものを利用したり、地域の図書館から借りたりして準備をします。（二時目の導入で使用した絵を利用してよいでしょう。）

○ 『風神雷神図』の絵を拡大して提示し、児童に教科書144ページと145ページの（書きだしの例）（記述例）を読んで聞かせ、解説文の具体的なイメージをもたせるようにする。

※ 児童が書く解説文のモデルとして、『風神雷神図』の解説文例もあります。必要に応じてご利用ください。

2 「何が」「どのように」描かれているのか、絵からどんなことを感じるのかを付箋に書き、絵の中に貼る。

○ 教科書の143ページに挙げられている視点とワークシートの下部に挙げている言葉を参考にして絵を見るように促す。

○ 「何が」「どのように」描かれているか、どんなことを感じるのかを付箋に書かせ、絵の中に貼らせる。

○ グループで話し合い、友達の見方も参考にして付箋の付け加えをさせる。

※ 「全体」や「部分」という見方も意識させて、できるだけたくさん付箋を貼らせるようにします。

3 付箋に書いたことを基にして、ワークシートに整理する。

○ ワークシートの左側の表に付箋を分類しながら貼り替えをさせる。

※ 分類が終わったら、書き出しに使えるところや、書く順序なども考えさせるようにすると、次時の学習をスムーズに進めることができます。

評価 絵を見て読み取ったことを整理している。

（書ア）

4 本時の振り返りをして、次時の確認をする。

○ 次時は、本時のワークシートを基にして、解説文を書くことを知らせる。